

紙本墨書「李鼎元書」保存修繕報告

輝広志^{*1} 宇保朝輝^{*2} 當間巧^{*3}

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の「李鼎元書」である。作品は墨書が1枚の料紙に書かれ、額装に仕立てられていた。平成29年6月13日から平成30年3月31日、石川堂で修復を行った。今回の修復では本紙の亀裂、欠失損傷箇所の修復後再び額装に再装丁した。

II. 作品の形状及び寸法

修復前後の法量は以下の通りである。

1. 本紙

- | | |
|--------|--|
| ①基底材 | 宣紙 |
| ②寸法 | 修復前 丈 41.4cm 幅 85.6cm
修復後 丈 41.9cm 幅 87.1cm |
| ③本紙枚数 | 1枚 |
| ④画材 | 墨・膠 |
| ⑤本紙の特徴 | 装飾、加工無しの料紙 |

2. 装丁

修復前

- | | |
|-------|------------------------|
| ①装丁 | 額装 |
| ②額装寸法 | 丈 51.1cm 幅 106.1cm |
| ③額装形式 | ベニヤマット額装 |
| ④裏打ち紙 | 2層
肌裏紙・楮紙
2層目・楮紙 |
| ⑤大縁 | 白洋紙マット |
| ⑥木縁 | 角型黒木縁 |
| ⑦収納箱 | 差蓋杉箱 |

修復前 額装全図



^{*1} 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係

^{*2} 一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係 主事

^{*3} 石川堂 代表

修復後

- ①装丁 額装
- ②表具寸法 丈 57.2cm 幅 113.1cm
- ③額装形式 杉材組子式・裂地筋入額装
- ④裏打ち紙 2層
肌裏紙・楮紙（新調）
2層目・楮紙（新調）
- ⑤裂地 大縁 薄金茶地紐繫文綾（新調）
小縁 薄藍地唐草文綸子（新調）
- ⑥木縁 角型黒塗艶消し木縁（新調）
- ⑦収納箱 被せ蓋桐箱（新調）

修復後 額装全図



III. 修復前の損傷状況

1. 本紙には劣化損傷、亀裂、亀裂部分の暴れ欠失が生じていた。



修復前 本紙全図 亀裂、強い折れが多数確認できる。左部より斜光線を当て、折れを強調。



修復前 本紙部分 亀裂、亀裂部分の暴れ欠失が確認できる。

2. 本紙全体的に時代的な汚れ、部分的に染みが複数見られた。



修復前 本紙部分 汚れ染み



修復前 本紙部分 汚れ染み

IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。

2. 墨・朱印の剥落止めを行う。

墨・朱印の状態を調査した結果、墨文字・朱印の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又は料絹の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙の亀裂損傷、欠失箇所に適する補修紙で繕いを施す。

補修紙は、高知県立紙産業技術センターの本紙繊維組成試験結果を基に「宣紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 長期的な保存を考え、本紙を上質の強い和紙を使用し2層裏打ちする。

6. 額装裂地を新調する。

使用する裂地は協議により、大縁・薄金茶地紐繫文綾、小縁・薄藍地唐草文綸子に決定した。

7. 上質の杉材組子下地及び角型黒塗艶消し木縁を新調する。

8. 被せ蓋桐箱、黄色地木綿製保護袋を新調する。

収納にあたっては保護袋に包み収納保存した。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。
2. 額装の解体を行なった。

右：修復中 額装の解体作業後写真



3. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、本紙汚れの除去を試みた作業は本紙を傷ない範囲にとどめ、本紙裏面の裏打ち紙を除去した。



修復中 本紙の表打ち作業



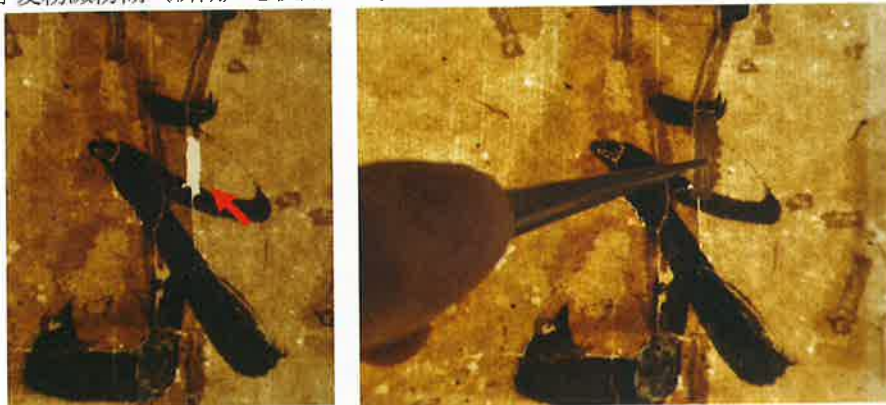
修復中 裏紙の除去作業

4. 本紙裏面の旧肌裏紙を捲り取った。過去の修理時に、旧裏打ち紙に墨字が加筆されているのが確認された。

右：修復中 旧肌裏紙の除去作業



5. 本紙の亀裂、欠失損傷箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙同質の宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復中 亀裂、欠失箇所の補修作業

6. 長谷川紙で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。さらに強度を持たす為、2層目の裏打ちを行った。糊は（新糊）を用い裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 肌裏打ち作業



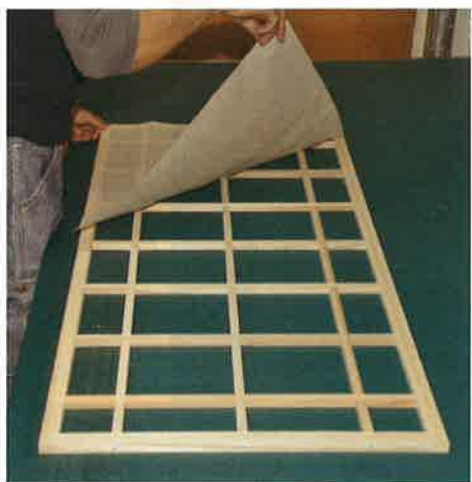
修復中 2層目の裏打ち作業

7. 下地ならびに角型黒塗艶消し木縁を新調した。

右：新調した杉材下地と木縁



8. 下地に、骨縛り、胴張り、三枚葺掛け、葺縛り、表裏一重の泛の伝統的な下張りを施した。紙は悠久紙、糊は（新糊）を用いた。



修復中 骨縛り作業



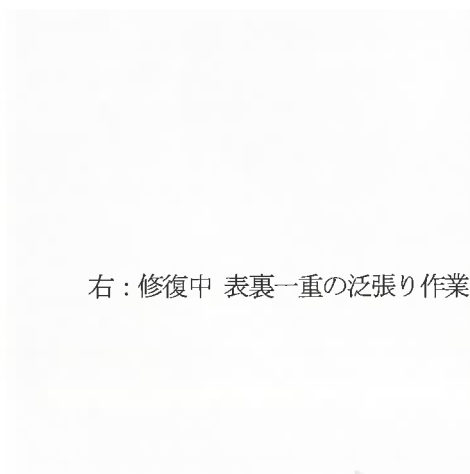
修復中 胴張り作業



修復中 三枚葺掛け作業



修復中 葺縛り作業



右：修復中 表裏一重の泛張り作業



9. 下地に本紙、新調した裏紙を張り込んだ。
糊は（新糊）を用いた。

右：修復中 本紙の張り込み作業



右：修復中 裏紙の張り込み作業



10. 新調した裂地に長谷川紙で肌裏を打った。糊は（新糊）を用い裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 裂地の裏打ち作業

11. 補修（繕い）を施した箇所のみ補彩を施した。

右：修復中 補彩作業



12. 下地に新調した大縁、小縁裂地を張り込んだ。糊は（新糊）を用いた。



修復中 大縁裂地の張り込み作業

13. 新調した角型黒塗艶消し木縁を取り付け、額装を完成させた。
14. 黄色地木綿製保護袋を新調した。
15. 被せ蓋桐箱を新調し、紙帙を製作後、額を木綿製保護袋に包み収納保存した。



被せ蓋桐箱

16. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

VI. 修復前後の状態

1. 額装・木縁

修復前は、額裏面にベニヤ板が使用された質が悪い額装に仕立てられていた、修復後は上質な杉材下地ならびに角型黒塗艶消し木縁新調し額装に仕立てた。

修復前 額装全図



修復後 額装全図



2. 裂地、大縁・小縁

修復前



修復後



修復後の裂地について協議し全体との調和を考慮した結果下記に決定した。

小縁・・薄藍地唐草文綸子（京都産）

大縁・・薄金茶地紐繫文綾（京都産）

3. 染み・汚れ

修復前 本紙部分写真



染み・汚れが確認できる。

修復後 本紙部分写真



染み・汚れが緩和した。

修復前 本紙部分写真



染み・汚れが確認できる。

修復後 本紙部分写真



染み・汚れが緩和した。

4. 本紙の折れ、亀裂損傷箇所

左より斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。

修復前 本紙全図



亀裂と強い折れが多数確認できる。

修復後 本紙全図



亀裂と折れが収まり平滑な本紙面

修復前 本紙部分写真



亀裂、亀裂部分の暴れ欠失が確認できる。

修復後 本紙部分写真



亀裂、暴れが収まり平滑な本紙面

修復前 本紙部分写真



亀裂が確認できる。

修復後 本紙部分写真



亀裂が収まり平滑な本紙面

5. 本紙の欠失箇所

本紙の欠失損傷箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙同質の宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復前 欠失損傷箇所



修復後 欠失損傷箇所

6. 旧裏打ち紙の墨文字

過去の修理時に、墨字の欠失箇所を補うように旧裏打ち紙に墨字が加筆されているのが確認された。以上の点を協議の結果、墨の加筆がある旧肌裏紙を除去する事で文字の一部が失われるのと、墨字への影響を考慮し、今修復では墨の加筆がある肌裏紙は除去せず元使用する方針が決まった。



修復中 本紙表面透過光写真 光の違いで加筆が施された裏打ち紙が確認できる。

7. 本紙サイズ

修復前の額装は、マットの部分に朱印部分と墨文字が隠れているのが確認された。以上の点を考慮し、隠れていた墨文字と朱印部分を出来る限り出し本紙面を広くした。



修復前 本紙部分写真



修復後 本紙部分写真



修復前 本紙部分写真



修復後 本紙部分写真

VII. 作品の技術分析

高知県立紙産業技術センターに依頼し、本紙の繊維組成試験（JIS P 8120）を行った。
詳細は以下の通りである。

1. 本紙の繊維分析

試験の結果「青壇繊維、わら繊維」の混合であると確認された。

(別添 成績報告書 参照)



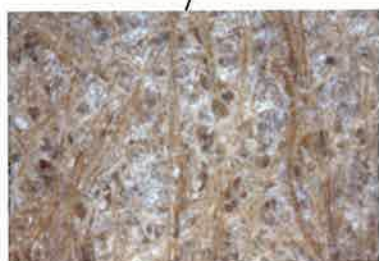
(高知県立紙産業技術センター撮影)

2. 本紙の顕微鏡撮影

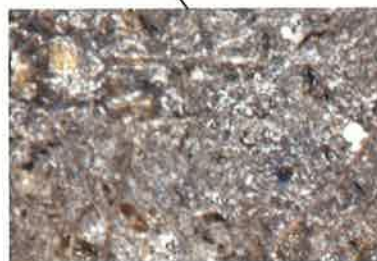
本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



朱印 朱



本紙料紙



墨書 黒

VIII. 修復諸資材

1. 接着剤

新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。

肌裏打ち、各所に使用。



2. 染料

天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノキ属夜叉五倍子の果実。

果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙、補修紙の染色に使用。



3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。本紙、裂地の肌裏紙。

②悠久紙（東中江和紙加工生産組合・富山県南砺市東中江）

1200年以上も古くから越中和紙は漉かれ、先人が残してくれた和紙技術、技法を受け継ぎながら、和紙の原料となる楮作りから紙漉きまで、昔ながらのやり方を守り続け、現在五箇山にただ一つ残る一貫した生産農家。こうしてできた純楮和紙は、強くて優美強靱で長期の保存に耐える。昭和49年以来、国指定重要文化財の古文書の修復などに悠久紙が多く使われる。

下地各下張り紙。

IX. 作業期間

自・平成29年6月13日

至・平成30年3月31日

X. 作業場所

沖縄県うるま市石川2738-11-2F

石川堂 當間巧

XI. 修復写真

修復前 額装全図



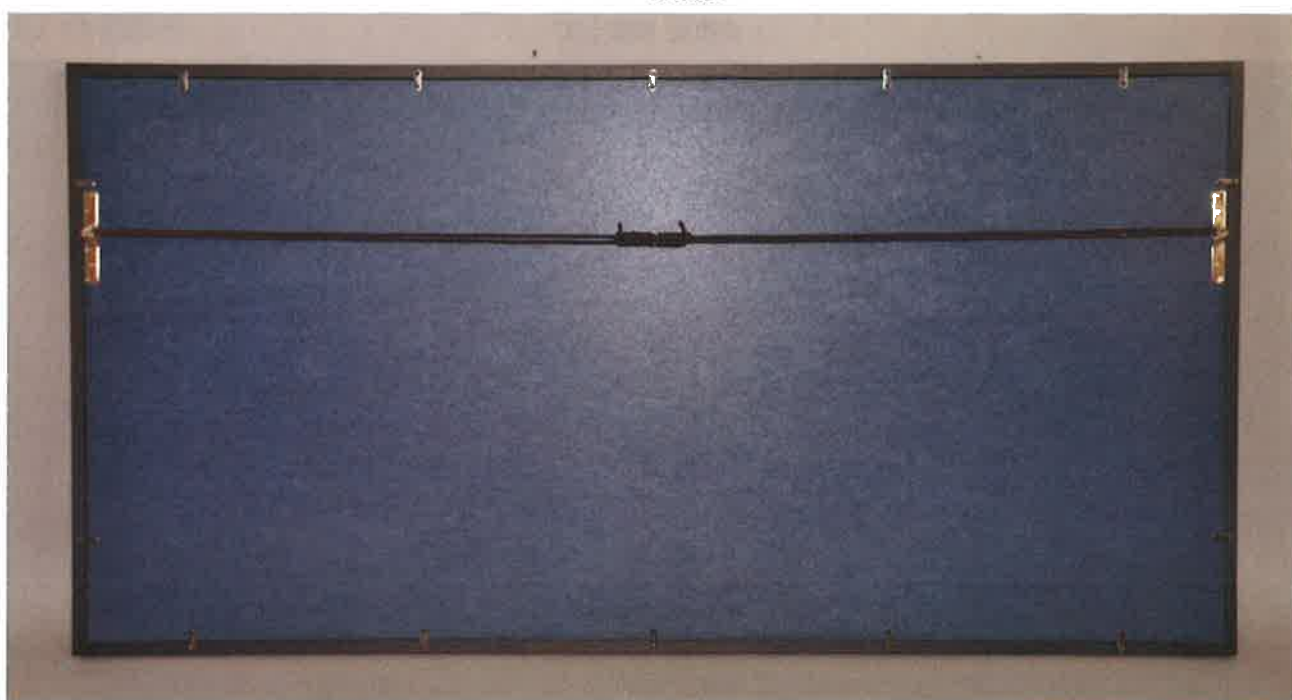
修復後 額装全図



修復前 額装裏面



修復後 額装裏面



修復前 赤外線写真



修復前 紫外線蛍光写真



修復前 額装全図 斜光線写真



修復後 額装全図 斜光線写真



修復前 差蓋杉箱



修復後 被せ蓋桐箱



修復後 被せ蓋桐箱

